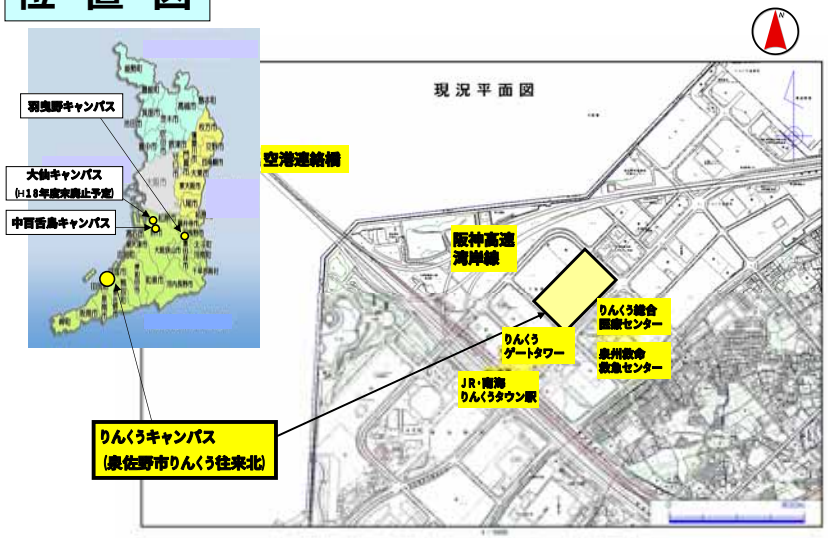
公立大学法人　大阪府立大学
獣医系学舎新築整備事業

建設事業評価委員会
平成１８年６月２１日

位　置　図



事業地写真（りんくうキャンパス）

大阪府立大学の学部・研究科（大学院）組織

	≪学部≫	≪研究科（大学院）≫
中百舌鳥キャンパス	工学部	工学研究科
	生命環境科学部 生命機能化学科、生物情報科学科、植物バイオサイエンス学科、緑地環境科学科、**獣医学科**	生命環境科学研究科 応用生命科学専攻、緑地環境科学専攻、**獣医学専攻**
	理学部	理学系研究科
	経済学部	経済学研究科
	人間社会学部	人間社会学研究科
大仙キャンパス	(旧)理学部	(旧) 理学系研究科
	(旧)人文社会学部	(旧)文学研究科
羽曳野キャンパス	看護学部	看護学研究科
	総合リハビリテーション学部	

18年度末廃止予定

事業の目的と内容

【目的】

○ 17年4月の法人化を機に、旧農学部・同大学院を生命環境科学部・同大学院に再編。

⇒バイオサイエンス分野に関する教育研究を重点的に行うとともに、関連する学問領域を融合させた新しい学部・研究科として発足。

○ 生命環境科学部・同大学院のうち、獣医学科及び獣医学専攻については、動物バイオ研究の新たな拠点づくりを目指し、りんくうタウンでの展開を図ることとしており、今般、りんくうタウンにおいて関係学舎整備を行うもの。

【内容】

○ 敷地面積：約11，000～12，000㎡

○ 学舎規模：約17，000㎡ ※共用部分含む

（内訳 本棟：約15，500㎡、動物飼育棟：約1，500㎡）

○ 総事業費：約65億円（内訳 建設費用：45億円、金利・事務費等：約20億円）

○ 維持管理費：約1．6億円／年

※「建築物のライフサイクルコスト」（(財)建築保全センター発行による）

事業の目的と内容

【事業地の優位性】

○ 事業地近傍には、未知の感染症患者を受け入れることができるりんくう総合医療センターや、関西空港の空港検疫機関等があり、獣医学科及び獣医学専攻の教育研究の推進にとって有利な条件を有している。

○ このため、当地での展開は、動物系バイオ分野の研究ポテンシャル向上と、これを通じた人材育成、さらに大学全体の総合力向上を先導するものとなる。

事業を巡る社会経済情勢

【大学間競争の激化】

○ 18歳人口の減少や社会のグローバル化により、かつてない厳しい大学間競争の時代。

○ 公立大学法人大阪府立大学が「世界に通用する”高度研究型大学”」を目指すためには、

・特色ある研究の推進や研究成果の社会への還元

・高度な専門的知識を備えた人材の育成

などが不可欠であり、これらを可能とする教育研究環境の整備が求められている。

【バイオサイエンス研究の著しい進展】

○ バイオサイエンス研究は既に世界的な開発競争の中。

⇒バイオ研究の進展に後れをとることのないよう、研究環境の早期整備が求められている。

事業を巡る社会経済情勢

【耐震性、安全性の確保】

○ 学舎には研究の性質上、薬品棚や高圧ガス配管、各種研究機器類などが多数配置。

⇒地震や火災発生等緊急時の安全性の確保が重要な課題。

【学舎の有効活用について】

○ 獣医学科及び獣医学専攻の使用学舎：S40年、S45年、S58年、H2年建設

⇒りんくうタウンへの移転後、順次改修工事を実施し、工学部及び工学研究科が使用

○ なお、中百舌鳥キャンパスにおける各学舎の整備手法については、大学法人資産の有効活用の観点から、可能な限りリニューアル改修で対応。

大阪府立大学キャンパスプラン

「大阪府立大学キャンパスプラン」（17年3月策定）

【平成17～22年度の整備内容】

◆ 新築整備の着手をめざすもの

- ○ 総合教育研究機構棟
- ○ **生命環境科学部大学院学舎（りんくうキャンパス）**
- ○ 特別高圧変電所　等

◆ リニューアル改修の着手をめざすもの

- ○ 旧農学部本館、獣医1･2号館
- ○ 旧農学部解剖棟　等

※りんくうタウンでの展開については、生命環境科学部大学院から、獣医学科及び獣医学専攻への変更を行ったため、現在、キャンパスプランの修正作業中。

事業効果　～事業効果の定性的分析～

【安全･安心】

○ 新築整備により、耐震性能･防火性能を十分に備えることができ、安全性の向上を図ることができる。

○ ユニバーサルデザインの導入により、誰もが安全でかつ快適に施設を利用することができる。

※獣医学科及び獣医学専攻の主な使用学舎

学 舎 名	建設年次	備　　考
B4棟	昭和40年	･現在の使用学舎は、耐震性能を十分には備えておらず、新学舎の建設により、安全･安心の確保が可能となる。 ･ また、現在の使用学舎についても、一旦空き学舎となることから、耐震改修を含むリニューアル改修を実施することができる。（学舎を使用しながらの改修は、教育･研究に影響を及ぼすことから困難。）
B6棟	平成 2年	
B7棟	昭和45年	
B8棟	昭和45年	
B9棟	昭和58年	

事業効果　～事業効果の定性的分析～

【活力】

○ りんくうタウンにおいて動物バイオの研究環境を強化することにより、全学的な活力向上を先導することができる。
　⇒大学の総合力が向上。

○ 中百舌鳥キャンパスにおける学舎整備については、転がし方式を基本としていることから、獣医学科及び獣医学専攻の移転による空き学舎の活用により効率的な学舎整備が図れる。
　⇒りんくうキャンパスへ移転後、順次リニューアル改修を実施し、工学部及び工学研究科が使用予定。

○ バイオ研究の新たな拠点形成等を通じて、りんくうタウンのまちづくりにも寄与できる。

事業効果　～事業効果の定性的分析～

【快適性】

○ 施設全体を現在の水準にあった仕様とすることができ、教育研究環境が向上する。
　⇒ 現在の施設は、研究機器の最新化･大型化等に対応できておらず、バイオ研究の進展に後れをとる可能性がある。

○ 電気･空調設備等の能力を向上させることにより、設備の陳腐化が改善され、研究環境が向上する。

【その他】

○ 設備機器の最新化や断熱工法の採用により、CO_2の削減をはじめとする環境負荷の軽減を図ることができる。

学舎整備手法

【学舎整備手法の概要】

≪整備手法の目的：コスト削減と資金需要の平準化≫

○ 公立大学法人の学舎整備については、設立団体（大阪府）からの施設整備費補助金を基本的な財源として実施されることから、コスト削減はもちろんのこと資金需要の平準化を図る必要がある。

≪整備手法≫

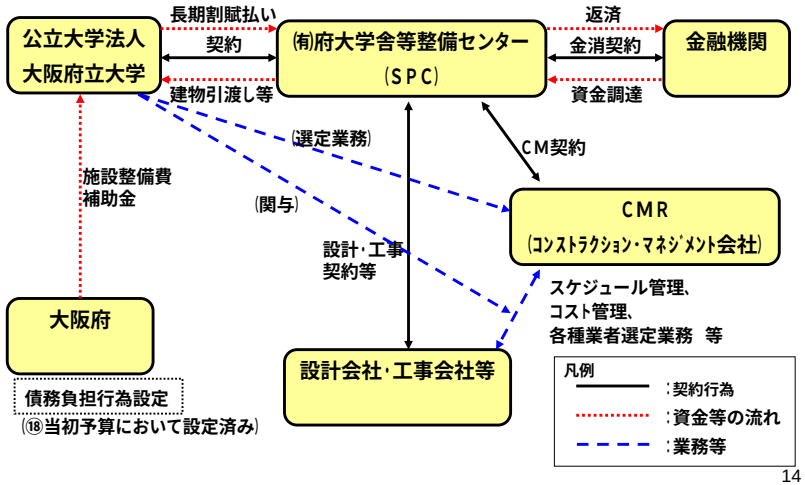
○ 大学法人は、地方独立行政法人法において、設立団体以外からの長期借入や出資等が禁じられているため、大学法人に成り代わって学舎整備事業を行う主体となる特別目的会社（ＳＰＣ：㈲府大学舎等整備センター）を、府大後援会が設立。

○ ＳＰＣは、金融機関から資金を調達し、ＣＭＲ（コンストラクション・マネジメント会社）を活用して、設計会社・工事業者等に事業を発注。（設計会社・工事業者選定については、府大の関与のもと、ＣＭＲが公平中立に手続きを行う。）

○ 大学法人は、ＳＰＣからの建物引渡し後、長期割賦払いにより支払いを行い、ＳＰＣは、大学法人からの長期割賦払い金をもって、金融機関へ返済を行う。

学舎整備手法

【学舎整備の流れ】



今後のスケジュール

	１８年度	１９年度	２０年度	２１年度
実施設計	←→			
工事		←→	←→	
供用			●→	